

三重塔

日本の仏教における塔は崇拜の対象であり、しばしばその内部には仏舎利という遺物が収められ、仏陀の記念碑とも見なされる。法輪寺の創建時の三重塔は、1944年に落雷により破壊された。再建のために、法輪寺は募金活動を開始した。この活動は地元の信者や一般の人々、さらには作家の幸田文（1904～1990年）などの有名人からも大きな支持を集めた。塔の再建は1975年に完成し、現在この塔には、もともとの塔の中に収められていて、火災から救い出された遺物が収められている。